

藤友



2015 新春号

No. 393

新年のご挨拶

謹んで新春のお慶びを申し上げます



本年もどうぞ

よろしくお願い致します



代表取締役 高藤 元太郎

第 7 0 期 経 営 方 針

次 の 時 代 に 向 け て

近年は我々が、かつて体験したことのない大転換の時代といえます。今までの体験や経験を通して鋳型のように抱えこみ、それを無自覚に受け入れて来ました。しかし、これまでの方法では対応出来ない事態が次々と起こっています。過去と違う転換によって新しい力を生み出すことになります。自分革命のチャレンジが未来をつくる新しい道を発見することになります。

1、信 頼・・・・・・・・存在価値ある企業

世の中が、高度経済成長時代から盛熟期に入ると、ユーザーが選ぶ時代であり個の時代ともいえます。本物指向・信頼・信用、人も企業も「信頼」が必要です。ましてや今から建設するという我々建設業はまさに「信用第一」社会に信頼される企業しか存在出来ません。信頼される企業の原点は信頼される社員がたくさんいて、人と人、企業と企業、それぞれ社会に存在価値ある我が社を創造することです。

2、変 化・・・・・・・・先入観・固定観念の打破

あらゆることが変わって行く激動の中で、人の考え方も価値観も、地域社会、家族のあり方も人と人との付き合いも大きく変わりつつあります。同じような状況には「自動回路」の如く同じ行動を生み出し、先入観や固定観念に縛られて他の道があることを見落としがちです。これからは変化に対応せねばなりません。今、社会はいろいろな意味で試練の大転換の時が訪れています。従来のやり方ではやっていけないということです。

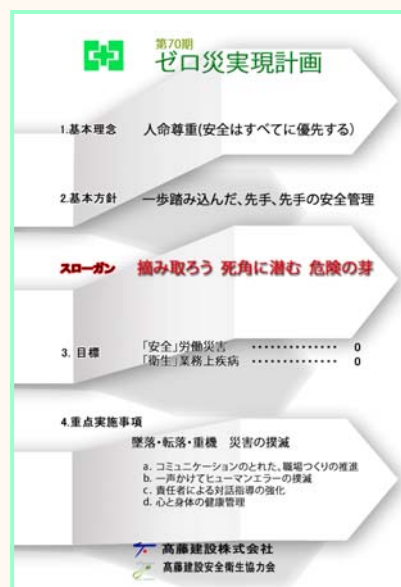
3、成 長・・・・・・・・人も企業も

常に移り変わり行く世の中で、現状で留まることは不可能です。前へ進むか後ろへ退くのか、ふたつにひとつしか道はありません。人も企業も向上し、成長し続けることが本質です。向上成長の基は「志」です。「志」「意志」があるかないかが問題です。「意志」あるところ不可能はないと言われますが、人は自分の「意志」で自分が決めたことは困難や試練にも立ち向かう勇気が湧いてきます。期首にあたり「志」を立て目的に向かってチャレンジしましょう。



目標達成・安全祈願

12月1日、当社は第70期の期首に当たり、戸上神社にて目標達成と工事の安全を祈願しました。祈願終了後、全員朝礼で、社長から今期の経営方針の趣旨説明を受け、各部門長がそれぞれの部門品質目標を発表しました。社員一同目標達成とゼロ災実現に向けて心をひとつにしました。



良きパートナーとして、普遍の気持ちでゼロ災

新年あけましておめでとうございます。

旧年中は、格別のお引き立てを賜り深くお礼申し上げます。本年も変わらぬご愛顧とご指導を宜しくお願いいたします。私たち建設業界を取りまく環境は、長かった不況を脱した感はあるものの、技能労働者の不足や更にはこの先にも資材の高騰や不足といった懸念も考えられております。これらに対しては柔軟な対応や経営判断が求められるのではないかと思います。

しかし、私たち協力会一同は高藤建設様の良きパートナーとして安全衛生活動の取り組みに対しては、従来通りの普遍の気持ちをもって対応して行かなければならないのではないのでしょうか。どうか本年も協力会の皆様方には、一層の努力と協力を賜りますように宜しくお願い申し上げます。

最後になりましたが、新年を迎え高藤建設様の益々のご発展と協力会の皆様方のご健勝を祈念いたしまして年頭の挨拶といたします。



高藤建設安全衛生協力会

会長 瀬口 昇司



九州自動車道吉志PA(上り線)営業施設

- ▽ 発注者 西日本高速道路株式会社九州支社北九州高速道路事務所 様
- ▽ 設計監理 西日本高速道路ファシリティーズ株式会社 様
- ▽ 工期 平成26年4月2日～10月28日
- ▽ 規模 鉄骨造2階建 延床面積623.09㎡
- ▽ 工事場所 北九州市



《完成して一言》

NEXCO関係者様及び関連業者様の御尽力により無事に吉志PA(上り線)の“モテナス”化改修工事を竣工することが出来ました。ご利用のお客様が明るい店舗内でゆったりとお食事やお買物をいつでも楽しんで頂ける事を心より願っております。

【建設部 佐々木】



山陽自動車道徳山東IC管理施設

- ▽ 発注者 西日本高速道路株式会社中国支社周南高速道路事務所 様
- ▽ 設計監理 西日本高速道路ファシリティーズ株式会社様
- ▽ 工期 平成26年2月21日～11月17日
- ▽ 規模 RC造2階建て外壁改修工事他
- ▽ 工事場所 山口県周南市



《完成して一言》

徳山東ICにおいて安全通路増築及び建物内部・外部改修、下松SAコリドール上屋改修工事でした。工事期間中、高速道路利用のお客様、周南高速道路事務所様他多くの皆様のご協力のもと無事、無事故無災害で竣工することが出来ましたことをお礼申し上げます。

【建設部 鳥上】



ホームプラザ ナフコ 元岡店

- ▽ 発注者 株式会社 ナフコ 様
- ▽ 設計監理 高藤建設株式会社福岡支店一級建築士事務所
- ▽ 工期 平成26年8月1日～11月25日
- ▽ 規模 生活館:S造平屋建 延床面積 2,999.25㎡
資材館:S造平屋建 延床面積 2,008.87㎡
- ▽ 工事場所 福岡市



《完成して一言》

工事場所は今後学生の街として現在開発中の、福岡市西区九州大学伊都キャンパスから約1kmの場所です。景観地区と言う事もあり外壁の色合いも付近の街並みに調和しており、学生の通学路になっている主道路沿いで、一際目立つ建物となっております。短工期ではありましたが関係者のご協力の基、無事竣工出来ました事を御礼申し上げます。

【福岡支店 竹元】



只今施工中 戸畑港運輸若松1号倉庫、2号倉庫増改築



設計監理 : アンヨウジエンバイロメンタルワークス様
工期 : 平成26年9月1日～平成27年3月20日
規模 : S造平屋建 延床面積4,736.27㎡



この工事は、戸畑港運輸株式会社様が時代の流れとともに多様化している荷主様のニーズに対応するために、他の物流業者との差別化を図るべく、自社倉庫を建設されるものです。今回は既存の倉庫を購入し全面改修を行い隣地に新たに倉庫を新築し、重量物の保管に対応しています。進捗率は12月末現在で35%。3月の竣工に向けてスタッフ一同無事故無災害で頑張っております。

【営業部 大江】

次世代へ向けて我が社の取り組み

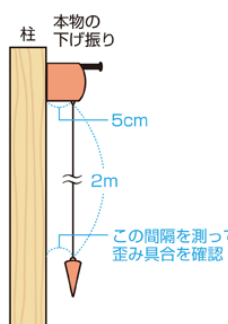
CHALLENGE!! 70

我社は今期70周年を迎えることになりました。この機に「質の高い建物の提供とお客様満足の向上」を目標に『Challenge70』と題し、我社が現在取り組んでいる次世代へ向けてのチャレンジをシリーズとしてご紹介いたします。



委員会メンバー

下げ振り委員会



データ管理の一本化及び情報の共有化と蓄積されたデータの活用方法の検討を目的に各部門の選抜メンバーで構成された「下げ振り委員会」を紹介いたします。

まず、このプロジェクトチームの名前の由来、「下げ振り」とは建築や土木工事等で中心や垂直・基準となる芯墨を出すための糸で吊るされた円錐形の錘(おもり)の道具のことです。我社では創立時の理念を正しく次世代へ継承することを意味し、プロジェクトチームの名前としました。

情報共有ツール【FileMaker】による事務効率化 70期本運用!!

社内情報を効率的に運用する為に、2008年からiPhone、2012年からはiPadを全社（100台）導入しましたが、それを実現する社内データベースの運用は完全ではありませんでした。iPhone・iPadを有効に使い、社内外からアクセスし情報を共有化できる方法はないか、どうすれば独自に開発できる容易で有効な社内データのシステム構築が出来るかを模索しているところにiPhone・iPadと相性の良いデータベースソフトFileMakerと出会い、その活用方法と構築を下げ振り委員会で検討協議しました。まずは現場の事務効率化を目指しました。各部門の委員会メンバーが中心となってFileMakerを日常業務に用い、最初の1年間はTry&Error（試行錯誤）を繰り返しました。それぞれのスムーズな仕事の流れを構築する上で、重複・類似していた書類などの洗い出しを行い、データ管理の一本化を実現しました。「書類を探す手間が早くなった」「音声入力が便利」など、ハード・ソフトの両面でメリットに気づき、FileMakerの活用が飛躍的に進む1年となりました。今期は蓄積された実データの解析はもとより、1年分の実データを生かす年にしたいと考えます。現場を始めとして各部門の事務効率化を進め、ISOにも活用して、情報の共有化に向けて「下げ振り委員会」のメンバー一同決意をあらたにし、頑張っ参りたいと思っております。

【下げ振り委員長 高藤章雄】



ファイルメーカーによって構成される iPhone・iPad・PCによる表示画面



作成ファイル見本、帳票/リスト ファイル添付画面/グラフ

70周年記念 「40年前のあの頃を思い起こして」

我が社も今期で70周年を迎えます。終戦から高度成長と昭和の激動の時代、あらゆる大変革が起きた平成の時代を如何に我が社が歩んできたのか、社員の目線でその軌跡を振り返り、これまでの我が社の歴史を次世代に語り次いで行く事にしました。そこで勤続40年以上の社員に「40年前のあの頃を思い起こして」と題して順に主筆することになりました。初稿は、高藤会長から掲載させていただきます。



「あれから四十年」

高 藤 昌 和

私の場合は、あれから50年半世紀ということになります。当時、完成工事高は3億円から4億円で社員も30名位のこじんまりとした家族的な会社でした。その間半世紀、紆余曲折、多くの試練に遭遇しながら今日までたどり着いたのも、お得意様、協力業者、金融機関、先輩や同僚、後輩社員の皆さまのお陰様だと心から感謝申し上げます。



さて、私は入社時、総務部に在籍していたので「安全」も担当することになり建設業の安全の難しさを感じました。生産工場と違い屋外作業であり、暑い日、寒い日、雨の日、風の日等々常に職場環境が変化すること、工程により新しい職種の職人さんが入場すること、完成すれば次の現場へ赴任する等々、他の産業と異なる問題もあります。また当時の安全に対する意識は今と比べると非常に低かったということです。安全帯はプロの鳶職には必要ない、そんなもんを必要とするのは鳶ではなくて烏であると言ったり、安全帽は暑いとか、作業の邪魔

になりかえって危険であるといわれた時代です。だから災害が多発し、今からは想像できないほど毎日のように発生していました。

全産業の中でも建設業は災害が最も多い状態で、ゼロ災害は夢のような話ではじめから災害は今年は何件でおさえるという目標でした。昭和36年の建設業で尊い命を失った死亡災害は6072名でした。それが平成25年には342名で5%、実に95%の減少ということです。当時は1日あたり18.3人という大切な命を失っていましたが現在は1日あたり0.93人です。未だ道中場ですが想像も出来なかったこと、夢にも思わなかったことも愚直に一歩一歩、歩み続けることによって大きな成果となります。10年後、20年後をめざして努力することが本質です。



今日まで我が社を支えてくださった多くの皆様に心から感謝申し上げます。
ありがとうございました。

“ローマは一日にしてならず されど一日にして崩壊する。”

昭和30年生 当たり年



企画開発 清水 敏己

還暦に当たる年男を迎えます。ここまで無事に過ごせたのは、皆様のご指導のおかげと感謝しております。次の年男に向け、どうすれば存在価値を出せるか、自問自答していきたいと思ひます。ご指導よろしくお願いしします。



大阪支店 森本 要一

大阪で3回目の末年、PTAや地域活動での友人、知人のマンション等を建設し、その方々の紹介等で色々な仕事をさせていただきました。仕事を通じて皆様のお役に立てたことを感謝し、今後もその絆を大切にしたいと思ひます。



福岡支店 松田 壽彦

いつの間にか私も60才。恥ずかしながら、年相応にはなり切っていないようです。この60年、廻りのいろいろな方々に支えられて、今の自分が有ると思ひます。まだまだ、人間的にも、社会的にも未熟だと自覚しています。あと残りの人生、一所懸命、成長・努力していきたいと思ひますので、これからもご指導・ご鞭撻をお願いいたします。有難うございました。



ADD室 豊島 和司

赤いちゃんちゃんこの似合う年齢になりました。次の目標は、①ダイエット、②恒例の家族旅行の復活、③読書量の増加、④常に+αの貢献を意識した仕事の徹底。当たり前のことを当たり前にする人間に。時間(とき)の長さを感じる様になった今、笑顔と周囲への感謝を決して忘れることなく。おおらかな気持ちで生きていきたいと思ひます。



CS事業部 宮原 則行

今年で5回目の年男を迎え60才になります。残り限られた時間ですがサラリーマン生活に悔い残さないように頑張ります。

昭和42年生 当たり年



大阪支店 高本 実由紀

感謝の気持ちを忘れず、最善を尽くし日々努力していきたいと思ひます。



昭和54年生 当たり年



福岡支店 **濱島 隆二**

入社して早17年、2度目の年男を迎えることができました。
これから先も年を重ねるごとに、先輩、友人、家族などから多くを学び、初心を忘れず少しでも会社に貢献し、共に成長していきたいと思っています



建設部 **河崎 竜市**

家内安全。日々精進。精一杯頑張ります!!

平成3年生 当たり年



管理部 **山口 夏実**

入社して初めての年女です。
まだまだ至らないところが多いですが会社へ貢献できるよう頑張っていきたいと思っています。



管理部 **田中 康雅**

入社したその次の年が「年男」ということで、何事にもチャレンジ精神で挑もうと思っています。まだまだ未熟者ですが、一人前になれるよう一生懸命努力します!!



営業部 **瀬戸 健太郎**

入社して早くも1年が経とうとしています。まだ仕事の面では分からないことばかりですが、無駄な日を過ごすことなく充実した日々を送っていき、努力することを忘れずに今後も仕事に励みたいと思っています。



福岡支店 **橋本 大輝**

入社して初めての年男です。
まだまだ仕事の知識や社会人としての知識が未熟ですので、これから少しずつでも知識をつけていこうと思っています。
先輩方にご迷惑をかけると思いますがこれからもご指導ご鞭撻のほど宜しくお願いします。今年も怪我や病気をせず健康な1年を送りたいと思っています。

100キロウォークは「無理はせず、自分のペースで」

この春高藤建設に入社し、何度か先輩社員の方々から「凄く過酷な会社行事??」があるという噂を耳にしていました。それが「行橋～別府100キロウォーク」でした。毎年参加されている社員の方々に熱心に誘われて、「100キロウォークに出てみよう!」と決心しました。

当日、少し早めに集合して、先輩方と一緒に体のケア、テーピングなど完全装備して備えました。会場につき、今回が第16回目の開催、参加人数がなんと4347名。

開会式も終わり、スタートの合図が鳴り、100キロウォークの挑戦が始まりました。

気が付けば先輩社員が全員、見えなくなっていました。スタート前に、江木次長に2つ、教えられたことがありました。1つ目は、「自分のペースで歩く事」、2つ目は、「無理はしないこと」。

全員遠ざかり、周りの人にもどんどん抜かされ、悔しい気持ちを我慢し、ひたすら自分のペースで歩きました。気付けば夕方になり、最初はなんともなかったのですが、いつの間にか足の裏に痛みを感じていました。「少し休もう。」とコンビニに立ち寄り、座り込んで10分程度休憩しました。まだそこは、歩いて15キロほどの距離でしたが、すでに足の裏が痛くなって、立ち上がりたくない状態でした。「さあ出発しよう!」と気合を入れて立ち上がろうとした瞬間、足全体が固まったように固く、なかなか思うように動かなくなっていました。15キロの地点ですでに足の裏はボロボロでした。

夜になり、36キロ地点の中津のチェックポイントにつき、安心してまた座り込みました。20分ほど休憩して、重い体を持ち上げ、また自分のペースで歩き始めました。「次のチェックポイントの宇佐まで止まらずにいく」と目標を立て、また歩き始めました。その頃はもう夜中近くになり、寒い体にジャンパーを着せ、「無理はせず、自分のペースで。」と自分に唱えて黙々と歩き続けました。気付けば50キロ地点に到達、そこで、「絶対に100キロを完歩する!」と決意しました。順調に歩いて、やっとの61キロ地点の宇佐のチェックポイントに到着。その時に30分ほど座り込み、立とうとした瞬間にひざに激痛が走りました。ひざは元々悪かったのですが、何があっても完歩したい気持ちが強く、歯を食いしばり、無の状態でもひたすら歩き続けました。そして七曲りの予想もしない急な上り坂、永遠と続く下り坂も気合で乗り越え、残り20キロの地点まで辿り着きました。その頃、足は腫れあがり、多くの水ぶくれができ、爪は割れ、ひざはガタガタ。そして寒さと眠気に襲われた状況でひざを引きずりながら歩いてました。この時は本当に「リタイアしたい」と何度も思いましたが、ゴールはもうすぐと言いつつも、ひたすら歩きました。そしてようやく別府に着き、24時間7分というタイムで完歩できました。「100キロウォーク」は、自分が想像していた何10倍も精神的、肉体的にも鍛えられました。なんといってもあのゴールテープを切った瞬間の達成感には忘れる事はないと思います。この経験は自分にとって貴重な財産となりました。来年度に入社してくる新入社員達にもぜひ、頑張ってもらいたかったです。



【管理部 田中(康)】

けんちく耳より話

一般的に使われている言葉の由来を尋ねると意外な起源を持っている言葉が数多くあります。中には建築(家具)を由来となっている言葉もあります。今回からシリーズで「建築から生まれた言葉」について幾つか紹介致します。

1. 几帳面(きちょうめん)

意味：真面目。きちんとしたさま。規則正しい。正確な。

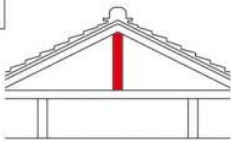
語源：几帳とは平安時代の絵巻などに出てくる、貴族の部屋を間仕切る布製の屏風の役目をする家具です。当時の建物、寝殿造りでは間仕切り壁が殆どなく、御簾(みす)、壁代(かべしろ)などで小さなスペースに仕切っていました。台に2本の柱を立て横木を渡し、張(とばり)をかけた造りになっています。その柱の角に細工することを「面取り」といい、中でも正確な技術を必要とするのが「几帳面」でした。このことからきちんとしている人や規則正しい人を指すようになったそうです。



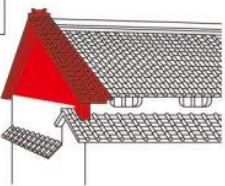
几 帳

2. 卯達・卯立つがあがらない(うだつ)

祝①



祝②



意味：地位、生活がよくなならない。ぱっとしない。

語源：卯立とは切り妻屋根(三角屋根)のスパッと切られた面(けらば)に、ニョッキリ突き出た小さな屋根のことを指します。また、屋根の下や屋根を支える束(柱のように立てられた木)を指すこともあります。その昔、屋根の下や横に突き出た小さな屋根を見た人が「兔の耳を立てたみたいだ」と言い始め、「兔の耳立ち」となり、「卯建ち」となっていったとか。卯立は、時代とともに防火と防水の役目から、家格の象徴として装飾が施されるようになりました。この事から家を建てる甲斐性や、家格を誇示するステータスシンボルを指して卯立が使われるようになったそうです。

3. 建前(たてまえ)

意味：表立った方針

語源：家を建てる時、基礎の上に柱・梁・棟など主な骨格を組み立てる「上棟式」のことを大工さん達の間では「建前」と言います。そこで「建前」が済めば大体どんな家が建つかわかるため、「建前」は表立った方針を意味するようになりました。

4. 束の間(つかのま)

意味：わずか。ちょっと

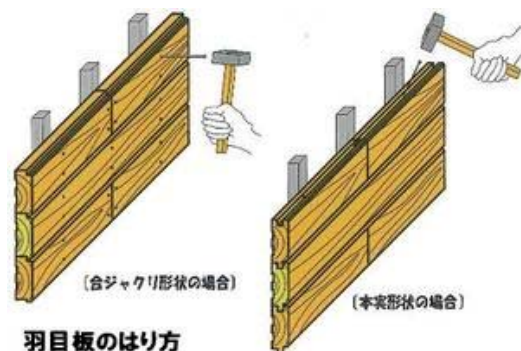
語源：束とは一般的に短い柱のことを言います。国語辞典には4本の指で握った長さとなります。これより「わずか」「ちょっと」を表すようになりました。

5. 羽目をはずす(はめをはずす)

意味：調子に乗りすぎて度をこすこと。

語源：a. 羽目とは、板を並べて張ること又は張ったもののこと。このきちんと並べてきれいに張った羽目をはずしてしまうと台無しになってしまうことから生まれた説

b. 荒馬の口にはめる縄のことを羽目と言い、羽目を外すと馬が暴れだすことから生まれた説があります。



編 集 後 記

あけましておめでとうございます。新年にあたり皆様のご多幸を祈念いたします。

表紙の写真は長野県と富山県の県境にそびえる唐松岳山頂で日ノ出を待つ登山者の姿です。

昨年、御嶽山の爆発の瞬間がテレビに流れ、技術の発展によるスマートフォンで撮られた動画からは自然の力に圧倒された人の弱さが現れた瞬間でした。

火山の爆発だけではなく、大雨や台風による被害は、自然の力を侮った人間の愚かさを感じさせる年でもありました。

雲海から顔を出す太陽を見て、自然の力に対抗するのではなく、自分自身の力量をわきまえ、謙虚に自然と向き合って生きたいと身体の内から漲る力を念頭に当たり感じております。

発 行

高藤建設株式会社 高 藤 元 太 郎

北九州市門司区東新町1-1-30

TEL093-381-0461 FAX093-381-0543

<http://takafuji.co.jp>



高 藤 建 設 株 式 会 社